

Kumamoto Gakuen University
Library Bulletin

O a k s

大楠



53

2014
[平成26年]

図書館キャラクター「ひのと」

特集

～学生協働～

学生とつくる図書館



Contents

- ① 館長エッセイ
- ② 特集「学生協働 学生とつくる図書館」
- ⑤ News News
- ⑦ Information
- ⑨ Library Data

協働学習のすすめ



堀 正広

Hori Masahiro

外国语学部教授、図書館長。博士(文学)。英語コーパス学会会長。著書/Investigating Dickens' Style: A Collocational Analysis. (Palgrave Macmillan, 2004, 英語コーパス学会賞)、「英語コーパション研究入門」(研究社、2009年)、「例題で学ぶ英語コーパション」(研究社、2011年)、Kaneko Tohta, Selected Haiku With Essays and Commentary Part I: 1937-1960, (共訳) (Red Moon, USA, 2012)など。

最近、教育の分野で「協働」や「協同」という言葉をよく耳にします。「共同」ではなく「協働」や「協同」が使われています。ここでは、教育工学で使われる「協働」を使っていきます。

それでは、大学教育における「協働学習」とはどういうものでしょうか。「協働学習」は「共同学習」とはどこが異なるのでしょうか。協働学習に関する著作を読むと、いくつかのキーワードがあります。単に「共同で学習する」だけでなく、「学生中心の授業」、「学生同士で学びあう授業」、「対話中心の授業」、「主体的な学習」、「育てたい学生像の明確化」、そして、「自分の学びが仲間に役に立ち、仲間の学びが自分の役に立つ授業」などです。このようなキーワードは、「グループ学習」とどう違うのでしょうか。これまでのグループ学習は多くの場合、その理念と方法論が明確でないために、役割が固定して特定の学生だけが活動し、他の多くの学生の参加が消極的な授業になりがちです。一方、「協働学習」は、「グループの全員のメンバーが一つの目標を達成す

るために、共になくならぬ存在として活動し合っていく」(杉江修治[ほか]編著『大学授業を活性化する方法』玉川大学出版部、2004年、58頁)ことです。実際に「協働学習」を授業で実践するには、「協働学習」の考え方と方法論を学ぶ必要がありますが、大学の授業を見直す上ではこれからは重要なキーワードとなるでしょう。

このような「協働学習」の考え方は、図書館での学習にも影響を与えてきています。本学図書館でも「協働学習」の取り組みが始まっています。図書館は、これまで「静かな学びの空間」でした。最近ではラーニング・コモンズに見られるように、「静かな空間」だけでなく「語らいの空間」もあります。その「語らいの空間」をもつと質的に高めようとするのが、「協働学習の空間」としての図書館です。親しい者同士の語らいの場だけでなく、異なった学部の学生や院生の議論の場としての図書館です。学生の図書館利用を学生自身が支援する「学生コンシェルジュ」も「協働学習」では欠かせない存在です。学生コンシェルジュによる読書会では、学生が対等の立場で本を紹介し合います。その発展的なイベントとして、「書評合戦」とも言われる「ビブリオバトル」の第1回目が、9月30日に本学図書館のラーニング・コモンズで開催されました。

学生の主体的な学び「協働学習」をこれまで以上に支援するために、熊本学園大学の図書館は進化し続けます。



Kumamoto Gakuen University
Library Bulletin

O a k s

Oaksとは…

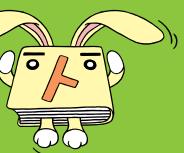
本学の大江キャンパスの建物は、奈良飛鳥時代の古墳群の上に築かれていますが、この地を考古学では、「大江青葉遺跡」と呼んでいます。

そのキャンパスには、創立当時から風雪に耐え我々を見守ってきた高さ20m、幹回り4~5mに達する県木である緑豊かな楠の大木が何本もあります。これら歴史ある地と天高く聳えた大楠のように、当館電算システムと学園の発展を願ってOaks(Oe Aoba Kumamoto Gakuen University Library Information System)と命名しました。



特集 学生協働

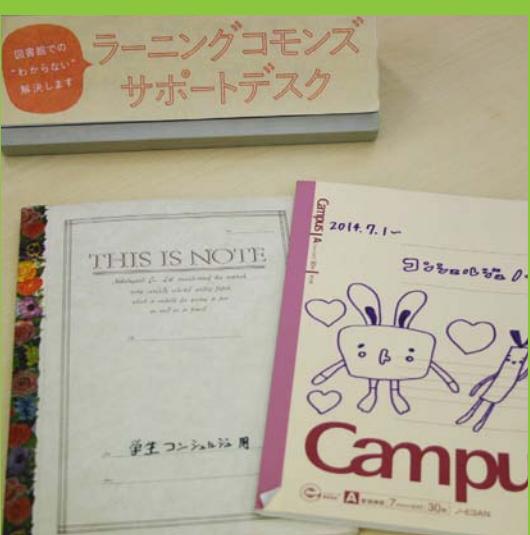
学生とつくる 図書館



大学図書館における「学生協働」が、全国的に広まりつつあります。その活動内容・形態は様々ですが、従来の学生アルバイトのように夜間や休日に単純作業だけを行うのではなく、「自発的・自律的に学習支援に関与し、図書館スタッフの一員としての働きをする学生」の活動のことを指しています。

本館では、昨年9月のラーニング・コモンズ正式オープンと共に、「学生コンシェルジュ」を置きました。この「学生コンシェルジュ」には、長年図書館でアルバイトとして勤めた学部上級生が任命されています。

今回の特集では、その活動と「学生協働」について取り上げます。





熊本学園大学付属図書館 学生コンシェルジュ



学生コンシェルジュ とは？

私たち学生コンシェルジュは、図書館の案内や資料を探すお手伝い、またレポート・卒論作成の補助や学生生活における相談受付などをしています。

学生目線での気付きを大切にし、学生から求められているものを図書館で実現したり、学生コンシェルジュ独自の企画などを開催したりしています。

堅いイメージのある図書館、勉強・資料探しだけの図書館を、くつろげる大学の中心に変えていくことを目標としています。どうぞお気軽に、ラーニング・コモンズを訪ねてみてください。

●学生コンシェルジュ／北原悟志

レポート

『第4回大学図書館学生協働交流シンポジウム』に参加して

現在、全国各地で大学図書館を舞台として、学生が職員とともに図書館の運営にかかわり、様々な企画に取り組む活動が広まっています。そこで、「そもそも学生協働とは？」というところから将来の学生協働について考え、活動のさらなる発展を目指すために、『第4回大学図書館学生協働交流シンポジウム』に参加してきました。

シンポジウムでは、ポスター発表で各大学の活動内容を傾聴したり、少人数のグループに分かれて「学生協働は利用者の役に立っているのか？」について話し合ったりと、密度の高い時間を過ごしました。他大学の方のお話を聞くと、学生選書や学習相談、レポート作成支援等の活動を行っているところが多いようです。

学生協働には、学生のキャリア形成や図書館サービスの質の向上など、多くの利点があります。流行だから取り組むのではなく、有用であるから取り組むようにしたいものです。

●職員／徳村有紗

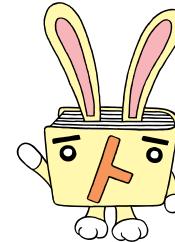
第4回大学図書館 学生協働交流シンポジウム

日程：平成26年8月21日～22日
会場：山口大学 吉田キャンパス
<http://www.lib.yamaguchi-u.ac.jp/LA/sympo2014/>



EVENT

学生コンシェルジュ主催 読書会



今年度より、月に一度読書会を開催しています。読書会は、参加者がそれぞれ好きな本を持ち寄り紹介する会です。感想や意見を述べ合うことで、本の面白さを共有することができます。

知人や友人だけではなく初対面の方もいる場で、本の魅力について話すというのはなかなか難しいことです。難しいことだからこそ、楽しさがあると私は思います。質疑応答の時間を設けているため、疑問に思ったことをその場で尋ねられるのも楽しみの一つです。

読書会がなければ知り合うことがなかったかもしれない利用者同士が、本でつながっていく様子を見ると、図書館スタッフとして大きな喜びを感じます。「読書会で紹介されていた本を読んだよ。日ごろはミステリー読まないんだけど、気になって」といった声が聞けたときも嬉しいです。人の出会い、本との出会い。すてきな出会いを作るお手伝いをこれからもしていきたいと思います。

●学生コンシェルジュ／田中晃子



学生コンシェルジュの1日

コンシェルジュの1日について紹介します。

自分で考え動かなければならないコンシェルジュの仕事は、大変だからこそ、企画をやり終えた時には大きな達成感を感じることができます。

●学生コンシェルジュ／柘植菜々子



11:30



12:00



13:00



14:00



15:00



17:00

出勤。昨日までの「コンシェルジュノート」を読み、他のメンバーが記入してくれている気づきや今日のイベントなどから、1日の仕事を流れを決めます。

学生コンシェルジュの広報誌「月刊コンシェルジュ」が完成。掲示用と配布用をご用意しています。

利用者の方に声をかけながら館内巡回し、サポートできるよう努めます。他の作業中でも、利用者のサポートは最優先で対応します。

Facebookや次の「月刊コンシェルジュ」の記事を書いたり、企画の準備をしたりと、自分で考え動く業務ばかりです。

「コンシェルジュ選書」の棚に、自分が紹介したい本と自分のプロフィールを並べ、自分らしくデザインします。

コンシェルジュノートを書き、17時以降の当番職員へ引継し、片付けたら、勤務終了です。

1 新入生ガイダンスに84ゼミ1,194名が参加

新入生ガイダンスは、学生に大学図書館の機能とサービスの理解、今後4年間の学習活動に図書館を有効利用してもらうための基礎的な支援として昭和60年から実施しています。今年も4月～6月に全学部の基礎ゼミ・基礎授業を対象とした「新入生ガイダンス」を実施しました。

全体プレゼンテーションでラーニング・コモンズやAVコーナーなど、図書館の“場”や“空間”を紹介し、「印象付け」と「サービス案内」に重点を置きました。また、新しい試みとして「図書館殺人事件」と称した問題(QRコードのクイズ形式・クロスワードパズル)を読み解くスタイルを提示しました。地下書庫に殺人現場を再現し、話題の小説や郷土の著名人をクイズの題材にするなど、ゲーム感覚を取り入れ、学生が楽しめる参加・体験型ガイダンスを目指しました。ガイダンスを通じて図書館の施設とサービス、図書館員による支援の存在を知ることにより、図書館を利用しようという意識が芽生えたようです。データベースや新聞記事を活用した資料収集、レポート作成やゼミ発表など、より自主的な学びへと繋がっていくことが今後も期待されます。

1 全体プレゼンテーション

**2 司会担当:
徳村有紗**

**3 図書館殺人事件に
用いた「探偵手帳」**

**4 地下書庫内の
殺人現場**

5 地下書庫見学の様子

**6 各フロアに設置されたQRコードを
読み取り、クロスワードを完成**

**7 Missionには図書の貸出や
個室利用も含まれている**

**8 クロスワードパズルの文字を
並べ替えてみると...
犯人は○○○だ!**

**9 クイズの正解者には粗品
(大学グッズ)を進呈**

**10 人気のAVコーナーは
常に満席状態**

2 平成25年度 学生懸賞論文審査結果

平成25年度の学生懸賞論文には前年（16篇）を大幅に上回る30篇の応募がありました。今回も例年どおり10月から12月にかけて一次審査、二次審査が厳正に行われ、その結果、特選に該当する論文はみられず、入選3篇、佳作6篇という厳しい審査結果となりました。

なお表彰式は1月22日図書館地下AVホールで行われ、堀館長から講評が述べられたあと一人ひとりに懸賞金が授与されました。表彰のあとに入選者のスピーチもあり、その後は式に参加した同じゼミの友人たちと一緒に写真に納まる光景も見られ、和やかな雰囲気のうちに終了することができました。

今回の入選論文は、「平成25年度学生懸賞論文集」として発行され、図書館内で配布されています。平成26年度も皆さんのたくさんの応募を期待します。選考結果は右のとおりです。

特選

該当者なし

入選 (3篇)

- 濱田 龍太郎（商学科4年）現代企業の成功要因について –ユニクロの事例–
- 長廣 佳奈（リーガルエコノミクス学科4年）遺伝資源・伝統的知識をめぐる南北問題と国際的枠組み
- 井上 穂二（英米学科3年）Oscar WildeのSalomeに見られる視覚動詞の象徴的手法について



佳作 (6篇)

- 本田 愛里（国際経済学科4年）九州新幹線全線開通による交通サービス市場の変化
- 岡本 麻里（リーガルエコノミクス学科4年）著作物の判例にみる同一性保持権の侵害について –実演との比較を含めて–
- 大澄 のぞみ（英米学科4年）Literacy History of Bilingual Children Living in Japan
- 原口 理衣（英米学科5年）Looking at Sherlock Holmes from England and Japan: Seeing a country's personality through mysteries
- 守田 美里（英米学科5年）Japanese Learners' Understanding of Katakana English
- 浦本 千聖（社会福祉学科4年）出生前診断はどうあるべきか

3 オープンキャンパスで図書館探検

7月27日、8月8日のオープンキャンパスでは合計1,067名の来館となりました。入館の際には一人ずつ磁気カードを渡してゲートを通過してもらい“大学生”気分に。オリジナルの葉も手渡されました。第2回目の8月8日は、イベントとして茶道部による「お茶会」や「女子カフェ」「県人会」もラーニング・コモンズで開催され、高校生などの来館者は653名と賑わいました。図書館では「高校生のための文庫×新書特集」「新聞縮刷版で誕生日の出来事を調べよう」「DVD視聴」などを準備し、図書館機能のいくつかを体験してもらいました。



4 ステップアップ ガイダンスは 25回実施 (334名参加)

例年、新入生ガイダンスと同時期に、より発展したレベルでの図書館利用を目的とした「ステップアップガイダンス」を実施しています。対象は1~4年生と大学院生。昨年の17回を上回る多数の申し込みがありました。ガイダンスの内容は「レポート・論文の書き方」「プレゼンテーションの方法」のDVD視聴と「雑誌記事・新聞記事」のデータベース検索です。今年はプロジェクターと電子ホワイトボードを用いた実演の効果で、データベースの操作方法などスムーズに紹介することができました。また、対象者が3年生の場合は就職関連の資料収集を、留学やインターンシップを視野に入れた学生には幅広い情報源を提供するなど、図書館機能の充実度をアピールしました。情報リテラシーはゼミ発表、レポート・卒業論文作成そして社会に出てからも必要不可欠です。これらが大学生活で十分身につくよう図書館ではバックアップ体制を整えています。

5

新聞記事の探し方講習会を実施

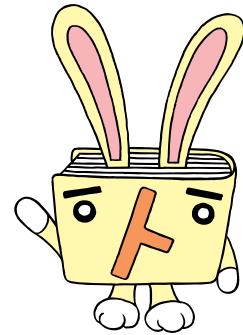
7月9日~18日の期間中にラーニング・コモンズフロアで「新聞記事の探し方講習会」を開催しました。今回の講習会では、レポート作成、論文執筆、就職活動に幅広く活用できる“新聞”について、検索に便利なデータベースの操作方法や紙面を使った情報収集の仕方を紹介しました。日本経済新聞はもとより読売新聞や朝日新聞など新聞各誌の特徴や利用方法が学べるということで、学部生や大学院生、教職員など37名が聴講しました。就活生向けの講座では、ニュースを読む視点や解釈の仕方・面接対策など、内定獲得へのポイントを交えながらの説明に皆熱心に聞き入っていました。



[図書館からのお知らせ]

1 電子ジャーナルとしてのEBSCOhost

2011年度からEBSCOhostの「Academic Search Premier」「Business Source Premier」を導入し、6,700誌について全文を提供しています。電子ジャーナルタイトル一覧は[EBSCO A to Zウェブサイト](#)を、データベースとしての検索は[EBSCOhostウェブサイト](#)を使うと便利です。カテゴリー別に収録誌を表示することもできますし、査読付きの論文に限定して検索することもできます。マイライブラリより認証して入りますと学外からも利用できます。また冊子体で購読中の外国雑誌およそ400誌のうち、130誌は付属の電子ジャーナルでも提供しています。個別の誌名等は、雑誌係(内線1713)までお尋ねください。



- 【図書館ホームページ】より順にたどります

- 電子ジャーナル/電子ブックをクリック

- 用途にあわせて、EBSCO A to Zウェブサイト
EBSCOhostウェブサイトをクリック

2 熊本国府高等学校 インターンシップ

7月9日に、ビジネス科2年生の女子学生3名がインターンシップを行いました。

当初3日間を予定していましたが、台風8号接近のため1日だけの実施となりました。

図書の貸出や返却を中心とした閲覧業務を行いました。地下書庫の図書移動では、皆で協力しながら手際よく処理していました。時折、高校の卒業生がカウンター越しに声をかける様子が印象的でした。図書館の仕事の経験や学びを今後に活かしていただきたいです。

3 ナイス・トライ 帯山中学校

9月9日～11日に熊本市立帯山中学校の2年生5名が本学図書館で職場体験学習を行いました。「ナイス・トライ事業」推進の依頼を受けて毎年行っており、データベースを使った新聞記事検索や図書移動、ポップ作成など図書館の一連の仕事を皆、とても手際よく処理していました。



4

第2回 学生懸賞論文説明会

平成26年7月9日、本年度の「学生懸賞論文」に応募を考えている人を対象とした説明会が図書館ラーニング・コモンズで開催され、約30名の学生が参加しました。

当日は堀正広館長の挨拶のあと3名の講師が紹介され、昨年度の審査委員および専門審査委員から、様々な視点での説明がありました。商学部の今村寛治先生からは「論文とはどのようなものか」として、論文の書き方について注意するポイントの解説、経済学部のカーク・マスデン先生は「アメリカから見たコピペ問題」について話をしました。また、外国語学部の吉田良夫先生は「良い論文」と題して、論文としてのまとめ方・書き方について述べました。

最後に図書館から参加者全員に「学生懸賞論文募集要項」を配付し、応募方法について説明しました。昨年に引き続き2回目となる学生懸賞論文説明会は盛会のうちに終了しました。終了後に各講師の先生方に多数の質問が出て、実りある説明会になりました。



5

Library Lovers'

今年も、Library Lovers'（以下、LL）に参加します。

LLは、九州地区の大学図書館・高専図書館が合同で開催する、読書週間イベントです。「図書館を好きになんてもらいたい」「図書館を、様々な本や知識、そして人の出会いの場にしたい」という思いのもと開催され、今年で5年目を迎えます。

当館では、今年も合同企画に参加するほか、様々なイベントを開催する予定です。

日程：平成26年10月20日（月）～11月16日（日）



※写真は昨年の様子です。

6

就活生向け データベース講習会

秋学期も利用教育普及の一環として、各種データベース講習会を開催します。対象は学生・院生・教職員です。就職関連やレポート対策など、用途に応じた内容となります。図書館HPや掲示などで随時お知らせします。

10/8(火) 日経NEEDS-Financial QUEST

10/20(月) eol(企業情報データベース)

12/9(火) ジャパンナレッジLib／日経テレコン／毎索／CiNii Articles

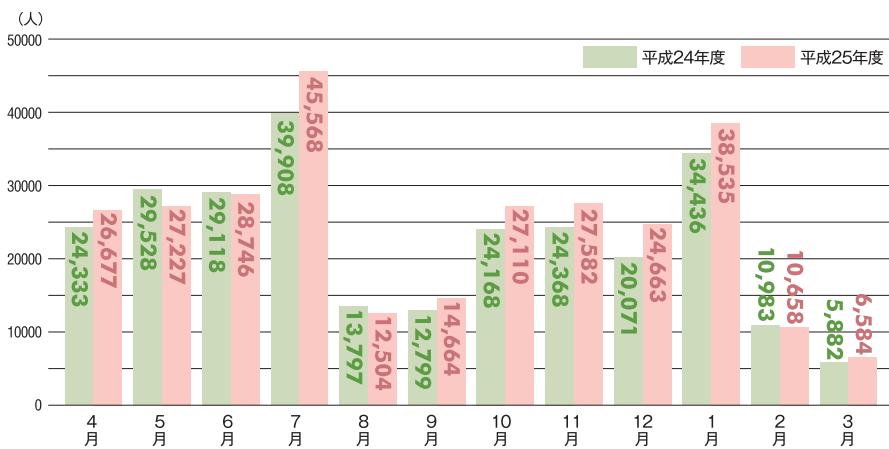
12/15(月) 熊本日日新聞記事データベース

入館者数・貸出冊数統計

平成25年度
利用統計

入館者数統計

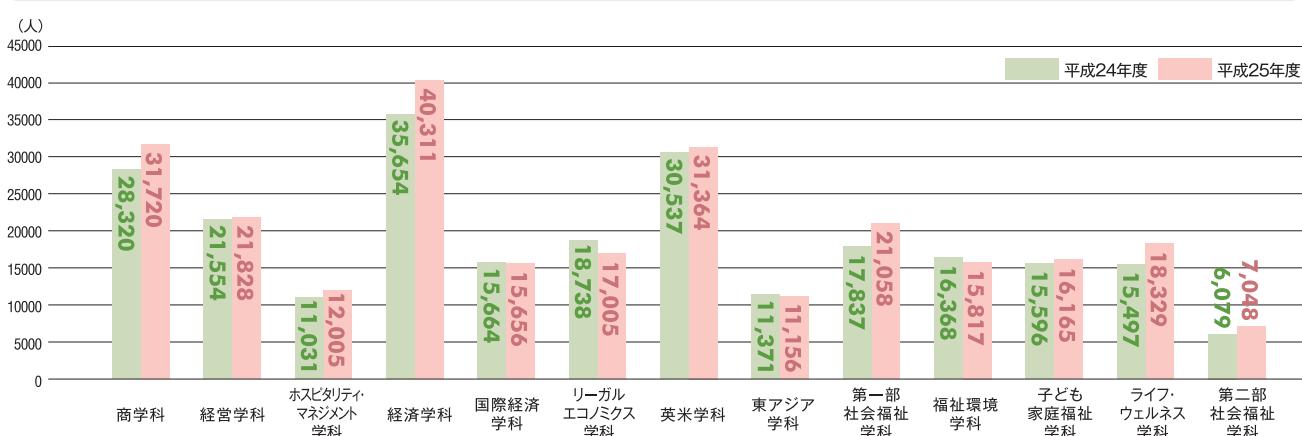
月別入館者数



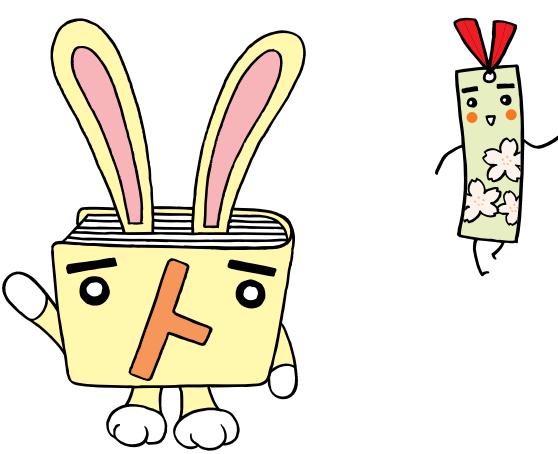
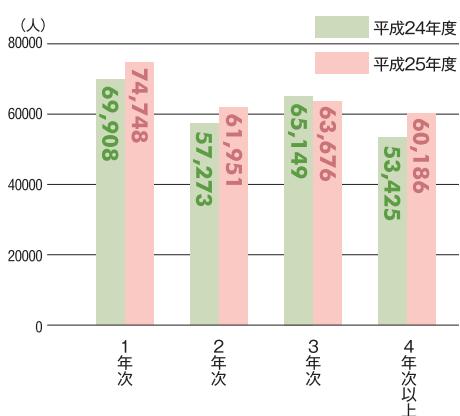
入館者数(過去5年間比較)



学科別入館者数



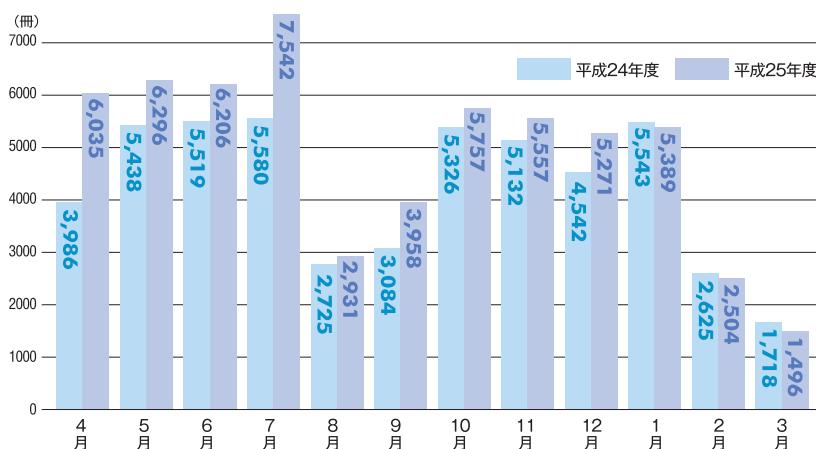
学年別入館者数



貸出冊数統計



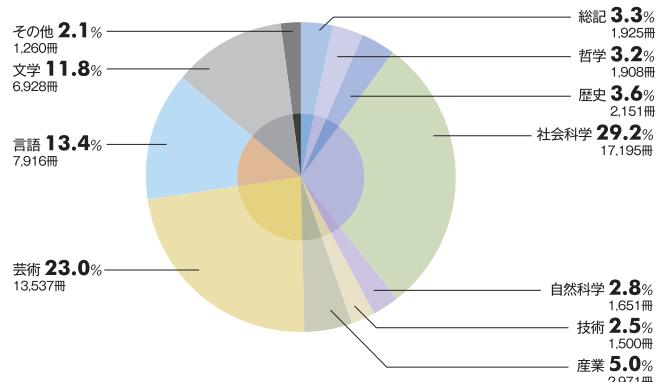
月別貸出冊数



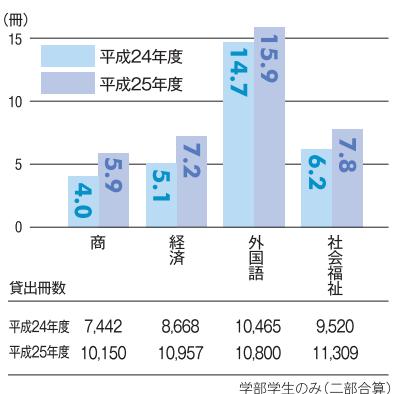
貸出冊数(過去5年間比較)



分野別貸出比率



学部別一人あたりの貸出冊数



受入統計

平成25年度

	洋書	和書	合計冊数
購入	1,867	10,519	12,386
寄贈	18	253	271
学内科研費	0	0	0
合計	1,885	10,772	12,657



ラーニング・コモンズ利用統計

平成25年度

内容	利用回数
授業等	13
講座・講習会等	43
学生企画	1
図書館企画	3
合計	60

※平成25年9月20日
正式オープン
ラーニング・コモンズは自由利用で届け出の必要はありません。そのため、この統計は席確保のために事前に予約された催事のみの回数で作成しています。



データベース利用統計

平成25年度

システム	件数
日経テレコン21	193,611
eol	9,606
MAGAGINEPLUS	1,222
CiNii機関定額制	22,512
LEX/DB	1,390
EBSCOhost	2,441



ILL依頼・受付件数

平成25年度

依頼	件数	
	複写	貸借
依頼	676	
	390	
受付	1,069	
	280	



AVコーナー利用状況

人数

平成21年度	19,180
平成22年度	18,388
平成23年度	14,917
平成24年度	14,845
平成25年度	16,910



図書館日誌

2013年10月～2014年9月まで

図書館行事

- 10月7日～10月16日・学生懸賞論文受付
10月9日・図書館委員会
10月12日・オープンキャンパス 図書館開放
10月13日・休館(体育の日 通常授業に伴う開館)
10月19日～10月25日・図書館実習
10月21日～11月17日・Library Lovers'2013開催
10月23日・図書館委員会
10月27日・臨時休館(学内立入禁止)
11月4日・休館(文化の日振替休日)
11月8日・九州五大学研修会
11月20日・図書館委員会
11月23日・休館(勤労感謝の日)
11月24日・休館(推薦入試)
12月11日・図書館委員会
12月22日・休館(天皇誕生日 通常授業に伴う開館)
12月26日～1月5日・休館(年末年始休業)
1月15日・休館(成人の日)
1月18日～1月19日・休館(大学入試センター試験)
1月22日・学生懸賞論文表彰式
2月1日～3月24日・春休み長期貸出
2月6日～2月9日・休館(一般入試)
2月11日・休館(建国記念日の日)
3月8日・休館(一般入試)
3月20日・図書館委員会
3月21日・休館(春分の日)
3月24日・学位記授与式
3月31日・休館(年度末処理)
4月3日・入学式
4月15日～5月29日・新入生ガイダンス
4月29日・休館(昭和の日)
5月3日～5月6日・休館(憲法記念日、みどりの日、こどもの日)
5月28日・図書館委員会
5月30日・休館(創立記念日)
6月6日・熊本県大学図書館協議会総会

- 6月8日・大学懇談会(熊本地区) 保護者へ図書館開放
7月7日・熊本国府高校インターナンシップ
7月9日・学生懸賞論文説明会
7月20日・休館(海の日 通常授業に伴う開館)
7月27日・オープンキャンパス 図書館開放
8月4日～9月6日・夏期休業期間の長期貸出
8月8日・オープンキャンパス 図書館開放
8月12日～8月19日・休館(夏期一斉休業)
9月8日・休館(一般職員研修会)
9月9日～9月11日・帯山中学校ナイスドライ
9月15日・休館(敬老の日)
9月17日・熊本県大学図書館協議会研修会・セミナー
9月23日・休館(秋分の日)
9月24日・図書館委員会

見学者・団体

- 10月11日・五ヶ瀬町立小学校(13名)
10月16日・武蔵中学校区図書ボランティア(14名)
10月16日・鹿本高等学校PTA(30名)
10月23日・熊本国府高等学校(47名)
10月31日・多良木高等学校(68名)
11月30日・大分県立森高等学校PTA(18名)
12月4日・熊本信愛女学院高等学校(55名)
12月12日・慶誠高等学校(35名)
1月30日・鹿児島県蒲生高等学校(20名)
2月25日・菊池高等学校(14名)
2月25日・高森高等学校(2名)
3月11日・菊池高等学校(53名)
3月18日・大津高等学校(37名)
6月11日・松橋高等学校(40名)
6月12日・宮崎県立飯野高等学校(99名)
7月7日・南稜高等学校(26名)
7月7日・上海市私立文崎中学校(39名)
7月7日・五ヶ瀬町立小学校(24名)
7月15日・鹿児島高等学校PTA(56名)
7月24日・都城西高等学校(9名)

編集後記

今号より、館報の編集担当になりました。私が学園大に入局してから6年半。その間に、図書館の中にも外にも、大きな変化がたくさんありました。館内の一番大きな変化は、「ラーニング・コモンズ」の設置と、それに伴う図書館運用の見直しです。今号では、その運用の柱でもある「学生コンシェルジュ」にスポットを当てた特集を組みました。職員目線だけでは実現がなかなか難しい、学生にとって「最高の図書館」とは、皆さんはどういうものだと思われますか?(A・H)

熊本学園大学 図書館報

大楠 第53号
2014年10月30日

編集・発行：熊本学園大学付属図書館
〒862-8680 熊本市中央区大江2丁目5番1号
TEL (096)371-8047(直通) FAX (096)362-5967
<http://www.lib.kumagaku.ac.jp/>

携帯電話から本学図書館の
蔵書検索ができます。



機種によっては、
正しく表示されない場合が
ありますのでご了承ください。